

フラッシュ

大蔵省景気予測調査結果〈茨城県の概要〉

◀景況判断▶ 規模別にみると、中小企業の「下降」超幅がやや拡大するもの、大企業の「下降」超幅は縮小する見通しである。

10年1～3月期の景況判断BSI（上昇＝下降）は、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。前回調査10～12月期と比較すると、製造業の「下降」超幅がやや拡大しているものの、非製造業の「下降」超幅がやや縮小しており、全体では「下降」超幅がやや縮小している。また、規模別にみると、中小企業の「下降」超幅は縮小しているものの、大企業の「下降」超幅は拡大している。

4～6月期の景況判断BSIは、非製造業は10～12月期と変化がないものの、製造業は「下降」超幅を縮小する見通しとなっていることから、全体でも「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

規模別にみると、中小企業の「下降」超幅がやや拡大するものの、大企業の「下降」超幅は縮小する見通しとなっている。

7～9月期についてみると、製造業、非製造業ともに「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

	9年10～12月 (前回)	10年1～3月 (今期)	前回(11月調査時)見通し	10年4～6月 (見通し)	10年7～9月 (見通し)
全規模	▲28.4	▲28.0	▲17.6	▲21.5	▲16.1
製造業	▲28.9	▲30.2	▲17.8	▲16.3	▲14.0
非製造業	▲28.1	▲26.0	▲17.5	▲26.0	▲18.0
大企業	▲14.0	▲27.8	▲15.8	▲14.8	▲3.7
製造業	▲11.1	▲34.6	▲18.5	▲15.4	0.0
非製造業	▲16.7	▲21.4	▲13.3	▲14.3	▲7.1
中小企業	▲46.7	▲28.2	▲20.0	▲30.8	▲33.3
製造業	▲55.6	▲23.5	▲16.7	▲17.6	▲35.3
非製造業	▲40.7	▲31.8	▲22.2	▲40.9	▲31.8

(3月26日 大蔵省水戸財務事務所資料より)

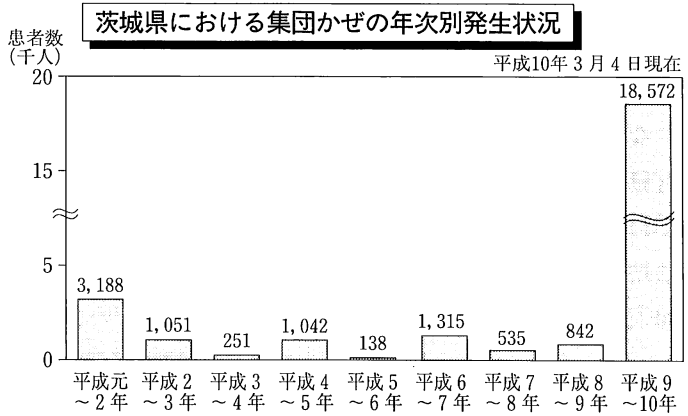
集団かぜの発生状況

本県におけるこの冬の集団かぜは、昨年と比べて発生が遅く、1月中旬以降急激に増加した。患者数は1月下旬から2月初旬にかけてが最も多かったが、2月27日以降集団かぜの発生がないことから、流行は沈静化しつつあると考えられる。今シーズンは、昨年に比べ20倍以上の患者数となった。

全国的には、昨年の11月初旬から関西地域などに発生が見られ、1月中旬から2月初旬にかけて関東を含む全域に流行のピークが現れた。今年はここ9年の中で最も多い患者数となった。

なお、衛生研究所における検査で、県内のほぼ全域で学童のうがい液からA香港型のインフルエンザウイルスが分離(65名)され、また、検査定点の検査で81名からA香港型、3名からAソ連型のウイルスが分離されている。

(3月6日 県保健予防課資料より)



ナイフ等の所持・携帯に関する調査結果

◀生徒と保護者の意識(認識の差)▶ ナイフ等を所持(持っている)と回答した生徒と保護者の比較 下表のとおり、中学校、高校とも差がある。

(回答者数に対する割合(%))

	中学校	高 校	備 考
生 徒	23.8	13.3	「あなたはナイフ等を持っていますか」に対する回答
保護者	7.1 (86.7)	5.9 (82.9)	「あなたのお子さんはナイフ等を持っていますか」に対する回答 ()内数は 持っていると回答した保護者のうち確認した割合(%)

ナイフ等を携帯(いつも持ち歩いていた)と回答した生徒と保護者の比較 下表のとおりで、中学校、高校とも差がある。

(回答者数に対する割合(%))

	中学校	高 校	備 考
生 徒	1.2	1.2	「授業等で必要とする以外、あなたはナイフ等を持ち歩いたことがありますか」に対する回答
保護者	0.4	0.4	「授業等で必要とする以外、あなたのお子さんはナイフ等を持ち歩いたことがありますか」に対する回答

ナイフ等を使用した事件が二度と起こらないようにするためには、どのようなことが必要か

		中学校	高 校
生 徒	生命の大切さを学級、HR活動で十分話し合う	60.5	51.0
	ナイフ等の所持品検査をする必要がある	23.7	19.7
	その他	16.0	28.3
保護者	学校での指導を厳しくする	3.3	4.2
	家庭で責任を持って注意すべき	24.5	25.5
	学校・家庭・地域社会が一体となった取り組み	68.4	67.2

(3月13日 県教育庁指導課資料より)